

# DIY 倉庫

2023年9月1日

## 1.自分でできることは自分でやる

倉庫を自分で作ってみたいという思いがあり、業者に頼まずに、私自ら手を動かすことを決意しました。様々な情報を収集し、計画を詳細に検討し、設計図を描きました。

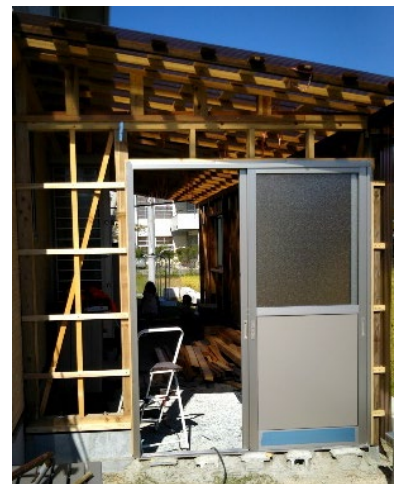
計画した倉庫の大きさは、延長10メートル、幅3メートル、高さ3メートルというサイズの倉庫を作ることになりました。

まず、必要な材料と道具を揃えるために、ホームセンターや建材店を訪れました。木材、ネジ、波板、ブロックなど、倉庫作りに必要なものを手に入れました。

一から倉庫を作り上げるため、構造やバランスに注意しながら、木材を切り、組み立てていきました。厳密な寸法と正確な接合が求められましたが、コツコツと作業を進め、土日の休日で完成させました。



土日で作り始めて、3カ月くらいかかりました。波板のくぎ打ちが難しかったです。完成写真がありませんが土間コンクリート入口スロープも行っていきます。



ある程度のDIY経験があり、棚や箱を作っ

た方であれば、ステップアップのため、犬小屋・自転車置場をぜひ作ってみましょう！！すべてホームセンターで調達できる時代になっています。



## 2.作業工程

- ① 計画を立てる(簡単に設計図を描く)
  - ・大きさによって材料調達が変わるため
  - ・場所によっては、建築確認の申請が必要です。
- ② 材料調達(電動式ドリルドライバー、丸ノコ、手ノコ、差し金、水準器、水糸、木工用ビス)
  - ・上記の道具があれば、ある程度のウッドデッキや椅子などを作ることができます。
- ③ 基礎を作る(袋入りセメント、砂利、砂、水、ブロックを使用)
  - ・倉庫が傾かず安定感を得るために、締固めや整地することが重要です。



# DIY 倉庫

2023年9月1日

2 / 2

- ④ 骨組みを作る(等間隔に柱を建込し、筋交いを入れる)
  - ・基礎ブロックと木材の間に基礎パッキンを入れると通気性が良く、腐食を防ぎます。
- ⑤ サッシの枠を固定する(差し金を使って慎重に位置を決める)
  - ・サッシは金額が高いので、種類に悩みました。
- ⑥ 屋根を作る(主に板材と波板がありますが、倉庫を明るくするため、波板を採用)
  - ・波板にも種類があります。
    - 1.ポリカーボネート (耐用年数 10 年)
    - 2.ガルバリウム鋼板 (耐用年数 15～20 年)
    - 3.トタン (耐用年数 5～7 年)
    - 4.塩化ビニール樹脂(耐用年数 3～4 年)
    - 5.塩化ビニール(ガラスネット入り)(耐用年数 4～5 年)があります。中でも 1 のポリカーボネートが丈夫で安く人気です。
    - ・波板専用ビスがありますが止水・耐久性の良いスポンジ付きビスを選んだ方が良いです。
    - ・波板の重ね代は、3山くらい重ねた方が良いです。
    - ・家と倉庫の間は、建築板金(ホームセンターに売ってある)を行う。



- ⑦ ドアの設定
  - ・倉庫のドアには、開き戸と引き戸の 2 種類があります。引き戸の場合は、スムーズに開閉するためのスペースが必要になります。
  - ・開き戸には、両開きと片開きがあります。両開きは、2 枚の扉左右が動くタイプで片開きは、片方どちらかが開くタイプになります。両開きは開口を広く取れるため、大きな物の出し入れが簡単でオススメです。

自作で作られる方、業者に頼まれる方それぞれあると思いますが、参考になれば幸いです。

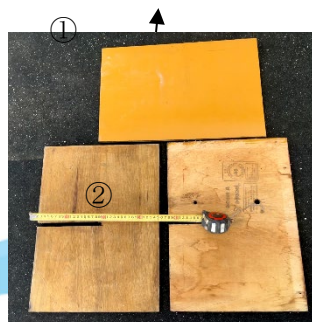
### 3.感想

この趣味を通じて、自己の限界を超えることの重要性や、努力と忍耐の大切さを学びました。趣味を通じて成長し、自信を深めることができたと感じています。

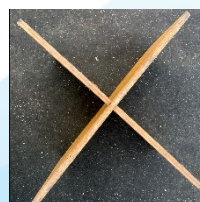
早速ですが、簡単なイス作りを紹介します。

- ① の 3 枚は同じ大きさです。②の加工を2枚作れば完成です。

切込み幅 15mm 長さ 200 mm



高さ 350mm



幅 500mm



発注者支援：古田